

ぐるめ散歩

洋菓子

キャラウェイ

キャラウェイは、旬の果物や厳選した素材を使い、ひと手間をかけたケーキが人気の洋菓子店。季節限定に加え、チョコレートなどを使った定番の生ケーキ約25種をはじめ、やさしい味わいの焼き菓子約20種のほか、ハーブティーなども扱う。



☎3430-1696 中和泉2-11-1-101 営業
=午前10時～午後8時
水曜休み



季節感じさせるケーキとやさしい味の焼き菓子

江にちなんだバロック・ノーブルが人気。みつばちロールや卵不使用の杏仁プリンもファンが多い。また、洋酒が控えめなので子どもにも好評だ。猫やリス、熊のフッキーなどの焼き菓子もファンが多く、贈答用に喜ばれている。10月はハロウィン用焼き菓子数種を提供する予定。

加藤さんは「季節を感じさせるケーキをゆったりと楽しんで」と話している。

おすすめMENU

- ① シュークリーム ¥280 / ② タルトクリームブリュレ ¥448 / ③ バロックノーブル (カット) ¥428 / ④ ショートケーキ ¥448 / ⑤ モンブラン ¥448 / ⑥ ミルフィーユ ¥430 / みつばちロール (カット) ¥370 / 杏仁プリン ¥440 / ファインシェ ¥198 / ココナッツ サブレ ¥128 (税別・丸中数字は写真参照)

けで演奏することになった。6人は7月末から猛練習を重ね、9月6日日にエコルマホールでビデオに収録、編集してWEB SOUBUN事務局へ送付、9月下旬から公開されている。



練習に励む箏曲部員たち

部長の泉菜央さん(2年)は「初めは不安もありましたが、チャンスは無駄にせず、先輩の思いと共に曲を創り上げたいと考え、練習を重ねました。持てる力は出し切ったと思います。都代表は本校だけなので、狛江市民をはじめ、たくさんの人に見てほしいです」と話している。

また、キャプテンの大室美陽さん(2年)は「例年

コロナ乗り越えWebで難曲熱演 都代表の狛江高校箏曲部が金光さん作曲の「容」演奏

都立狛江高等学校箏曲部が、新型コロナウイルス感染症予防のためWeb開催となった第44回全国高等学校総合文化祭大会に参加、2年生6人による演奏が31日田までWeb上で公開されている。

同部は、昨年11月に開かれた都高文連日本音楽部門で、沢井忠夫作曲「だちゆら」を演奏して優秀賞(東京都1位)を受賞、4年振りに21回目の全国大会出場を決めた。しかし、8月に高知県で開かれる予定だった全国大会は新型コロナウイルス感染症の影響で、インターネットを使ったWEB SOUBUNとして開かれることが7月に決まった。

同部では、外部講師を務

める市内在住の箏演奏家渡辺正子さんと相談し、全国大会では市内在住の作曲家金光威和雄さんの「容」を演奏することに決めた。渡辺さんによると「テンポも速く、プロしか演奏しない難しい曲。全国大会で挑戦するのにふさわしい」という。練習は昨年12月から始めたが、2月末から新型コロナウイルス感染症の影響で学校が休校となり、部員が揃って合奏ができないなど十分な練習ができなくなった。6月に学校が再開、中旬から部活も始まり、下旬には1年生が7人入部した。

WEB SOUBUNには当初2、3年生13人が参加する予定だったが、3年生が引退するため、2年生6人だ

タイムがぶせる50

証言=長谷川良二さん(85)、春日教男さん(85)、白井明さん(75)=以上元市職員、富永幸伸さん(62) 西野川3丁目

三度目の正直で市制昇格

◆狛江市は昭和45年10月1日に北多摩郡狛江町から昇格、都内で19番目の市になりました。市制が施行された1日は、富永和作市長(当時)が午前9時に議場で「市制宣言」を読み上げ、幹部職員に訓示しました。宣言文の読み上げに合わせて花火が打ち上げられました。その後、富永市長が乗ったオープンカーを先頭に華やかに飾り立てた商店会や各商店会の車がパレードしました。狛江第二小学校(現・緑野小学校)と狛江第三小学校の六年生の鼓笛隊も両校からマーチなどを演奏して市役所まで練り歩きました。続いて庁舎の表示板の除幕式が行われ、市役所など公共用地で記念植樹が行われました。この頃の市庁舎は木造の2階建てでした。現在も使われている市章は、狛江の「こ」の字を圖案化し多摩川の流れを表した岩戸在住の幡野徳治さんの作品が選ばれ、市の旗も作られました。当時は、子どもが増え続けて学校建設に追われており、市には財政的な余裕はありませんでしたが、市制施行の記念に小中学生と保育園児たちに市章をあしらった文鎮を、市民には「私の便利帳」を作って配りました。



小学生の鼓笛隊が狛江通りをパレード。左の2階建ての建物が市庁舎



富永市長(後席中央)の乗ったオープンカーを先頭に祝賀パレード



飾り立てた商店会などの車が祝賀パレード。左は旧狛江第一小学校

◆二小の六年生はみんな鼓笛隊に入っていました。パレードで何を演奏したか忘れましたが、夏休みが終わってから長い時間をかけてマーチなど何曲か練習しました。学校から市役所までさほどの距離ではありませんでしたが、当時は緊張していたので、すごく長く感じました。このパレードは、52年から始まった市民まつりのパレードのきっかけになりました。

◆市制施行の記念式典は、「体育の日」の10月10日に狛江第一中学校体育館で約800人が参加して催されました。町長、議員、教育、消防などそれまでに町の発展に尽くした人の表彰などが行われました。

◆市制施行に関する予算は全体で約310万円しかなく、

職員も少ないため、記念式典の準備は大変でした。内容を定めるため、調布市や保谷市など市に昇格したところに出向いて調べました。式典の招待者は、43年に行われた石井三四郎町長の町葬を参考に決めました。表彰者のリストアップは、まず基準を決め、文書を保管してある倉庫へ1日に何度も足を運んで調べたほか、町の人に聞き取り調査をして、なんとかまとめました。

◆住所が「東京都北多摩郡狛江町」から「東京都狛江市」に変わるため、役所で使うゴム印は作り直しが必要でした。また、窓口業務では住民票などを発行する度に原本の住所を手書きで直す業務に追われました。住民票を扱う部署では、住民票などの申請書を縦書きから横書きに変更する作業と重なったため、全く余裕がなく、式典の様子はまるでわかりませんでした。

◆市になるチャンスはそれまでに2回ありました。最初は、狛江村から町に昇格した翌年の28年で、この年に町村合併促進法が制定されたのを受け、12月に町村合併調査特別委員会を設置しました。調布町と神代町から合併の働きかけがあり、狛江町では3町合併と世田谷区への編入の2案を検討しましたが、意見がまとまりませんでした。その後、30年に調布町と神代町が合併して調布市が誕生しました。2度目は40年頃で、市に昇格する条件が5万人以上から4万人以上に緩和されました。ところが、40年の国勢調査では人口が39,978人で、わずかに22人足りず涙を飲みました。この時の町会議員は22人だったので、議員が1人ずつ転入させれば市に昇格できたという話が町の人たちの間でささやかれました。国会で市昇格の条件を3万人に引き下げる特例法の動きがあると、全国で市への昇格をめざす気運が高まりました。狛江町議会でも44年3月に市制対策特別委員会が設置されました。当時は5万8千人以上だったので人口は軽くクリアしていました。ただ、昇格には、人口以外に産業、公共施設、上下水道、納税状況など多くの条件がありました。45年になると当時の吉岡金四郎助役をトップとする市制準備委員会が設置され、町民に市の名称や要望などを聴くアンケートをはじめ、町役場をあげてさまざまな準備を進めて、三度目の正直で、ようやく市制施行にこぎつきました。



狛江第一中学校の門に飾り付けられた市制施行記念の装飾



狛江第一中学校体育館で催された市制施行記念式典

●市制施行50周年を迎える狛江市。昭和45年頃の街の様子や暮らしを市民の証言や写真でつづります。